

第5章 これからの学校連携のあり方についての提案

本報告書で言う「連携」とは、児童・生徒を育成するために、館種を越えてさまざまな環境を整備し、その学びを支援する取り組みとして位置づけています。

「連携」の推進によって、読書活動のより一層の充実を図ることに加えて、図書館の持つ機能をよく理解し、生涯学習時代の中で、自ら必要な情報を探して活用する能力（情報リテラシー）を養うための教育を社会教育・学校教育の両面から行うことによって、高度情報化社会を生き抜く力を身につけることができると考えます。

このような考えに基づいて、これからの連携のあり方について提案します。

1．学校図書館向けサービス利用のより一層の促進を図る

津山市立図書館では、既に学校図書館に向けたさまざまなサービスを実施しており、積極的に活用している小学校も多く見られますが、市立図書館の貸出サービスを利用する場合にも学校図書館によっては一元管理されているわけではありません。特に、団体貸出と配本所貸出の区分けに混同も見られ、貸出期間の長い方のサービスを活用するという状況もうかがえます。

学校図書館が上手く市立図書館の貸出サービスを活用できるよう、個々のサービスの目的を明確にし、それぞれを関連づけて相乗効果をもたらすように整理することで、より一層の促進を図ることが期待されます。

〔考えられる取り組みの例〕

既存サービスの整理

団体貸出、配本所貸出、自動車文庫、それぞれの貸出サービスをどのように活用してもらうか、各サービスの目的を整理し、特長を明確にする。

自動車文庫の運行等の幸便を含めた物流体制の継続的対応を検討する。

メーリングリストの有効活用方法を明確にする。

学校向けサービスのアナウンスの工夫

学校専用の利用案内を作成し、市立図書館のホームページに掲載する。

新年度ごとに学校向けの利用案内を配布する。

学校図書館のオリエンテーションへの参画を検討する。

市立図書館のホームページに各校のこどもページを作成する。

既存ツールの徹底活用

メーリングリストを活用して学校図書館の運営に役に立つ情報を配信する。

TOOL i - S (12) の教科書単元検索、学習件名検索を徹底的に活用する。

12 「TOOL i - S」: 株式会社図書館流通センターが提供する図書データ（平成 23 年 10 月現在 314 万件）

- ・資料評価のために現物を手に取らなくてもある程度の選書を可能にする。
- ・調べ学習関連リスト作成に役立つ。

2. 図書館ネットワークの構築を図る

個々の学校図書館だけでは人的・物的資源にも限りがありますが、市内の図書館間で連携し、市内全校の学校図書館、市立図書館さらには、相互協力関係にある美作大学附属図書館や津山工業高等専門学校図書館の資源も個々の学校の児童生徒や教職員が活用できるような仕組みができると、その効果は計り知れない可能性を持っています。

情報処理技術の進展により技術的な環境は整っています。図書館ネットワークの構築を図るなど、個々では有限である情報資源を市内全校で共有できる体制づくりが必要です。

〔考えられる取り組みの例〕

人的ネットワークの構築

学校司書または図書整理員をはじめ司書教諭や事務職員も、関係者全員が図書館ネットワークの構築について、その理念を理解し、積極的に参画することが必要です。個人的、偶発的な関係ではなく、公的な枠組みにおける人的なネットワークを築くことは、図書館ネットワークを構築するための大前提であり、人的ネットワークを基盤として物流ネットワークや、情報の共有化、現有のメーリングリストも活かすことが可能になります。

学校図書館職員の集まりを組織化する。

図書館ネットワークの構築に向けて、関係者による推進委員会などを立ちあげ、稼働後の運用も含めた取り決め等を検討する。

調べ学習の取り組みをはじめ、学校図書館の活用方法、情報活用能力を育てる利用指導の方法を研究する。

学校図書館の業務に関連する諸々の課題を協議して解決を図る。

限りある図書購入費を最大限有効に活かし、学校図書館の機能を果たすことができる有効な資料を選定するため、書評や蔵書構築の対策を立てる。

物流ネットワーク、資料の共有、資料の連携

各校の学校図書館においては人的資源が活用されてはいるものの、学校図書館の蔵書は「学習情報センター」としての機能を果たすには必ずしも十分とは言い切れない状況があります。有限な蔵書をより効果的に活用し、学校図書館を教育活動により役立つために、情報処理技術を活用し、資料の物流も含めた資料共有のためのネットワーク構築が求められます。

を活用できる小・中学校向けインターネットサービス。小学校の全学年・全教科の単元から本を検索できる「教科書単元検索」を活用して学習に役立つ本をリストアップしたり、児童・生徒が学習の場面で使用する言葉（キーワード）で検索できる「学習件名」を活用して調べたい事柄がどの本の何ページに記載があるかを検索したり、調べ学習や教材研究に威力を発揮する。検索からブックリスト作成、発注までを一連の簡単な操作で行え、図書データをダウンロードして使うこともできる。

情報処理技術を活用し、安定的なコンピューター・システムを導入することによって、より有効な業務のための業務時間の確保、確実な蔵書管理、正確な利用状況の把握を実現することが可能になります。

また、所蔵資料のデータベース化やネットワークを構築する際には、図書館業務についての専門的な知識を有する公共図書館の関わりは欠くことができません。

全校の所蔵資料をデータベース化し、市立図書館も含めた総合目録ネットワークを構築する。

総合目録をスムーズに構築するために、目録作成や装備などの整理業務を一元的に行い、各学校図書館においては、それらの業務に時間を取られることなく、より有効な業務のために費やす時間を確保する。

必要な資料を取り寄せることができるように、資料配送のための物流体制を構築する。市立図書館において、授業で使用する教材として役立つ資料を収集し、学校図書館の利用に供する。

学校間で必要な資料を相互貸借できるよう、有効な運用方法を模索してルール化する。

情報の共有、蓄積と公開

人的ネットワーク、物流ネットワークを通して共有される学校図書館経営や業務運営に関連する情報を整理し、学校図書館関係者や公共図書館職員の間で共有することによって、それぞれの業務の向上を図ることが求められます。また広く市民に公開することで活動のアピールを図ることも重要です。

レファレンス事例を共有する。

・学校図書館におけるレファレンス事例を共有することで、各校のレファレンス対応の充実や選書の充実を図る。また、公共図書館における選書や調べ学習参考資料の選書の内容の充実を図る。

メーリングリストを活用する。

教諭が作成した指導案を共有する。

児童生徒の調べ学習の成果を蓄積し、活用できるようにする。

文部科学省、県、教育委員会、他の学校や各種教育研究団体等から配布される情報を整理保存して利用できるようにする。

ブックリスト、パスファインダーを作成・整理し、公開する。

3. 地域人材活用のより一層の促進を図る

学校図書館の地域社会との連携をさらに促進し、ボランティア活動の活用をより活性化するために、継続的で体系的なボランティアの育成により、地域人材活用のより一層の促進を図ることが求められます。

〔考えられる取り組みの例〕

学校図書館ボランティアに携わる人材の育成

読み聞かせなどの活動だけでなく、整理・修理・装飾・展示などの学校図書館の業務を支える活動をするボランティアも育成を図る。

学校図書館におけるボランティア活動の意義や立場の自覚を促す養成講座を実施する。定期的、体系的にボランティアを育成できるような講座を検討する。

ボランティア登録の活用

市立図書館においてボランティアを育成するだけでなく、市の人材登録制度も活用し、学校図書館に限らず、広範囲におけるボランティア活動の場を提供する。

地域人材を人的資料としての活用

地域人材の活用を、業務の担い手としてだけではなく、地域の人的資料として、その持てる技能や知識を活用し、教育活動の展開に役立てる。

<市内小学校における地域人材活用の実践例>

院庄小：昔体験、佐良山小：囲碁の指導、高田小：地域学習の講師、清泉小：田植えの合鴨農法・昔遊び、成名小：昔遊び指導・川遊び指導、大崎小：昔遊びの指導、新野小：畑・田んぼ体験指導、勝加茂小：昔遊び、誠道小：農業体験 等

4. 地域・家庭・学校・図書館の連携による つやまっ子育成のより一層の促進を図る

地域や家庭における読書活動の推進を啓蒙し、地域・家庭・学校・図書館の連携によるつやまっ子の育成をより一層促進するための、より広範で柔軟な仕組みが求められます。

〔考えられる取り組みの例〕

津山市版「図書館を使った調べる学習コンクール」の開催、関連講座の実施

「図書館を使った調べる学習コンクール」:

- ・NPO 法人図書館の学校、(財)日本児童教育振興財団が主催する、図書館利用の促進と調べる学習の普及を目的とするコンクール。平成 23 年度で 15 年目を迎える。
- ・興味を持ったテーマを、公共図書館や学校図書館を利用して調べて、まとめた作品や図書館を利用した調べ学習を支援した活動をまとめた作品を募集し表彰するもの。
- ・主体的な学習と言語的表現力を重視する新学習指導要領の想定する学力を身につけさせるよい機会を提供し、評価する場として有効で、探究型学習の意義を顕質化する効果がある。また、コンクールの参加者にとっては、自分自身の興味関心を発展させ、学ぶことの動機付けなどの効果が期待できる。
- ・全国コンクールの地域コンクールとしての参加を奨励しており、平成 23 年度は、全国で 30 の地域・自治体で地域コンクールを開催している。

- ・地域コンクールの実施により、図書館の利用促進、学校との連携の深化、調べた成果の発表の場の提供、利用される資料の幅の拡大、探究型学習の促進という効果が期待できる。

cf. 「図書館を使った調べる学習コンクール公式ホームページ」

<http://www.toshokan.or.jp/shirabe-sp/index.html>

子ども司書制度の導入 “ 図書館大使 ”

「子ども司書制度」:

- ・読書に興味・関心が高い子どもたちを中心に、司書についてのノウハウを習得し、友達や家族に読書の素晴らしさや大切さを伝え、本と人との結びつきを手助けするリーダーの養成を図ることを目指す制度。
- ・子ども司書制度の普及と調査研究のために「子ども司書推進全国協議会」が発足されている。
- ・子ども司書に認定された子どもたちは、地域の図書館で読み聞かせのボランティアを行ったり、学校図書館では図書委員のリーダーとして活動したり、本の整理、分類等子ども司書として活動する。
- ・「読書の感動と知る喜びに目覚めた子どもが友だちと同級生に自分の気持ちを伝えることにより、好奇心と協調性が働き出し、読んでみようという気持ちが自然に広がる」と、子ども司書制度により「読書の流行する環境」整備が期待される。(子ども司書推進全国協議会副理事長 アンドリュー・デュアー「司書養成高等教育機関として実施する『子ども司書制度』認定講座の狙いとカリキュラム構築」より)
- ・平成 22 年度に福島県矢祭町が全国初となる子ども司書制度を導入して、現在では、全国 10 自治体で取り組んでいる。(福島県矢祭町、高知県、広島県、佐賀県伊万里市、青森県板柳町、栃木県小山市、千葉県八街市、佐賀県武雄市、青森県野辺地町、北海道石狩市)

cf. 「うちどく . com 家読推進プロジェクト公式ホームページ」

http://uchidoku.com/?page_id=21

地域の学習資源の活用

郷土の文化や郷土の先人に関する資料を活用する。

- ・津山洋学資料館や津山郷土博物館とも連携を図り、その有する資料・情報・機能などをより有効に活用し、子どもたちの郷土に対する理解を深めるための郷土学習を支援する。

5. 参考事例

1. 北海道恵庭市

「つなげよう、ひろげよう、育てよう、子どもが本と出会うまち」

基本情報

面積：294.87 km²
人口：68,938 人（平成 23 年 9 月 30 日現在）
図書館数：3 館（本館 + 2 分館）
小学校：8 校 4,014 人（平成 23 年 5 月 1 日現在）
中学校：5 校 2,166 人（平成 23 年 5 月 1 日現在）

北海道恵庭市は、札幌市と新千歳空港のほぼ中間に位置し、恵まれた交通アクセスと穏やかな気候風土を持つまちで、早くから住宅地整備を進めると共に、公共下水道や大学・専門学校、工業団地などの都市基盤の整備が進められ着実に人口が増えてきております。

また、支笏洞爺国立公園を後背地とした恵庭溪谷は、「白扇の滝」や「ラルマナイの滝」などが点在し、市の観光スポットとして、また、最近では市民主導による花のまちづくりが盛んで「ガーデニングのまち」として全国的に知られるようになりました。

現在、恵庭市では第 4 期恵庭市総合計画（基本構想：平成 18 年～27 年度）で将来都市像を「水・緑・花 人がふれあう生活都市」とし（1）水と緑と花に彩られた美しいまち（2）子育てしやすい暮らし豊かな心のかようまち（3）地域資源を生かした個性と活気あるまち（4）協働による地域づくりを進める交流のあるまちを目指しています。（恵庭市ホームページより）

「恵庭市子ども読書プラン」 - 読書コミュニティの街

「つなげよう、ひろげよう、育てよう、子どもが本と出会うまち」を目標にかかげ、読書コミュニティのまちづくりに向けて、乳幼児期から小中学校、高校の各年代で誰もが等しく読書活動に親しめるよう総合的・体系的に取り組んでいます。読書を通じたまちづくりが図書館を中心に行われ、家庭・地域・学校が一体となった読書活動が活発に展開されています。

家庭：親の読書活動に関する意識啓発、絵本を通じた親子コミュニケーションの深化、市立図書館等の利用、読み聞かせの会の参加、「家庭読書の日」の設定

地域（町内会）：町内会への読書啓発活動、本のリサイクルを推進、読み聞かせ会等の会場提供、読書アドバイザーの育成・活用、職場での読書活動奨励、企業の地域文化貢献（支援）

幼稚園・保育所：読み聞かせの実施、読書活動の推進、読書スペースの確保と図書整備、移動図書館車による「お出かけ読書会」の開催、幼稚園・保育所と市立図書館の連携

小・中学校：小中学校の学校図書館の環境整備と図書資料の充実、専任司書の配置、学校図書館間相互ネットワーク構築、市立図書館と学校図書館とのオンライン化、朝読書の全校一斉始業前完全実施、教職員の読書に関する意識啓発、司書教諭等のレファレンス能力の開発、学校図書館の啓発事業の充実

高校・専門学校・大学：読書活動の推進、社会人になるための百冊ブックリスト

市立図書館：読書のバリアフリー推進、高校生以上を対象としたブックトークの開催、赤ちゃんに優しい図書館の施設整備と充実、図書館の絵本コーナーの充実、親子でつくる読書の時間「家庭読書の日」の設定、ブックスタート事業の充実と追跡調査の実施と事業効果の検証、読書ボランティア「読み聞かせ隊」の育成支援、読書サークルに対する優れた取り組みへの表彰、ティーンズコーナーの設置と資料の充実、各年代に応じたブックリストの作成とブックトークの開催、団体貸出の促進、子ども読書の日啓発・普及、移動図書館車による各施設への配本、読書コーディネートセンターの設置
(「恵庭市子ども読書プラン」、「平成21年度文部科学白書」より)

恵庭市立図書館による学校図書館支援

図書行政の一元化を図るために恵庭市立図書館が学校図書館を所管し、子どもたちへの学習支援と読書支援を行っています。

小中学校への司書の配置

学校図書費増額

学校図書館とのネットワーク化

配本システムによる全市的な図書の共有利用

通年朝読書

ボランティアや教職員、上級生による読み聞かせの普及

事業の一例

ブックスタート事業

「ブックスタート」(9～10ヶ月健診時)

- ・絵本の読み聞かせとブックスタートパックの配布。
- ・赤ちゃん向け図書館利用案内。
- ・「えにわゆりかご会」(読み聞かせボランティア)と保健センターと協働。

「ブックスタートプラス」(1歳6ヶ月健診時)

- ・6冊の中から選んでもらった絵本と、「絵本ガイド」をプレゼント。
- ・市民ボランティアによる読み聞かせ。

「恵庭市小中学生調べる学習コンクール」の開催

主催：恵庭市 / 恵庭市教育委員会、共催：恵庭市学校図書館活動推進協議会、後援：特定非営利活動法人(NPO)図書館の学校

入選作品の一部は、全国コンクール(「図書館を使った調べる学習コンクール」主催：NPO図書館の学校 / 日本児童教育振興財団)の三次審査に応募し、審査される。

恵庭市立図書館調べ学習サポートメニューの実施

[メニュー1] 調べる学習講習会「きみにもできる!!チャレンジ調べ学習」:

小学3年生～中学生を対象に、調べ学習のテーマのさがし方、まとめ方、正確に伝えるための工夫などをレクチャーする。

[メニュー2] 全国調べる学習コンクール入賞作品展示会:

全国コンクール「図書館を使った調べる学習コンクール」入賞作品の展示会。

[メニュー3] 夏休み!調べ学習おうえん隊:

「調べ学習サポーター」バッジをつけた図書館司書が調べ学習をお手伝い、調べる学習にピッタリの本や調べる方法を紹介したパネル展示などのコーナー設置。

マッチングギフト制度「子どもの読書活動を支える寄附制度」

平成 18 年度より、個人・団体からの寄付金と同額を市から拠出する仕組みを作り、学校図書館の図書充実を図っている。

平成 23 年度「めざせ！読書王」(恵庭市青少年研修センター主催)

恵庭市青少年研修センター主催事業「恵庭子ども塾」(子どもの「やる気」をのばす体験活動)の活動の一部

小学 4 年生～6 年生対象の 1 泊 2 日の体験活動

恵庭市青少年研修センターと恵庭市立図書館が会場

内容：図書館へ行こう!!～お仕事体験・施設見学・本探しゲーム、読み聞かせ体験～読み聞かせの学習、夏のストーリーテリングと花火、すずらん保育園で読み聞かせ実施、まとめ～活動のふりかえり・これからの読書活動

恵庭市立図書館（本館）

所在地：〒061-1373 北海道恵庭市恵み野西 5-10-2

TEL : 0123 - 37 - 2181

ホームページ

<http://www.city.eniwa.hokkaido.jp/www/genre/00000000000000/1201850892860/index.html>

蔵書冊数：260,000 冊 個人貸出冊数：612,000 冊 個人登録者

2. 千葉県市川市

公共図書館と学校とを結ぶネットワーク事業

～子どもたちの心を育み、学びを育てる学校図書館づくり～

基本情報

面積：56.39 km² 広さ：東西 8.2km 南北 13.4km
人口：473,509 人（平成 23 年 10 月 1 日現在）
図書館数：6 館（図書館 5、図書室 1）他 市民図書室 4 室・公民館図書室 4 室
小学校：39 校 23,444 人（平成 23 年 5 月 1 日現在）
中学校：16 校 9,203 人（平成 23 年 5 月 1 日現在）

市川市は、千葉県の西部、江戸川を隔てて東京都と対峙しています。都心から 20 キロメートルの圏内に位置し、文教・住宅都市として発展してきました。都心部と県内各地域を結ぶ広域交通網の集中する位置にあり、東西方向は JR 総武線、京葉線などの鉄道や京葉道路、国道 14 号などの道路があります。

地形は、北から南に向かってやや傾斜しています。北部の台地はおおむね標高約 20 メートルで、それ以外は 2 メートル程度の平坦地がほとんどです。

北部には梨栽培などの農業が盛んで屋敷林などの緑も多く、また学園も多い文教・住宅都市です。南部は、東京湾に臨み京葉工業地帯の一翼を担っていると同時に、新しい都会的な住宅都市が形成されています。（「市川市のあらまし 市政ガイドブック 2011」より）

市川市の読書教育 - 学校・家庭・地域の連携と行政の支援

市川市では「生きる力・夢や希望を育む学校図書館」を市の目指す学校図書館像として掲げ、公共図書館と学校図書館、さらには学校図書館相互のネットワーク化を図ることにより、学校図書館を中心とした学校の教育機能を高め、児童生徒の「豊かな心」と「自ら学ぶ力」を育み、生涯にわたって学び続ける市民の育成を目指して事業を展開しています。

小・中学校 55 校に学校司書・学校図書館員の配置（昭和 54 年から・指導課）

4 小学校に市民図書室設置・ボランティアの活躍（昭和 55 年から・市川市コミュニティスクール事業）

全小学校で地域の方々の読書サークル・読み聞かせサークルが活動（市川市コミュニティスクール事業）

平成元年度 教育センターで「ネットワーク研究員会議」の発足と研究の推進

平成 6 年度 市川市生涯学習センター（市川市中央図書館・教育センター）開館

学校図書館ネットワーク事業

人のネットワーク ネットワークを支える人の連携

全学校図書館に人的配置

- ・市内全小中学校に学校司書を配置
- ・司書教諭の全校発令
- ・校内学校図書館部会の組織化

学校図書館支援センターの支援スタッフによる学校図書館支援

- ・読書教育全般への指導・助言
- ・学校図書館業務に関する相談・助言・協働

公共図書館の学校図書館支援の充実（学校支援担当の配置）

- ・読書活動・学習活動に必要な資料の貸出
- ・学級文庫の団体貸出
- ・出張おはなし会
- ・学級招待
- ・本の紹介リーフレット発行
- ・教職員体験研修・児童生徒体験学習

教育委員会各課の連携・協力

- ・教育センター・指導課・就学支援課の連携・協力

物流ネットワーク 公共図書館と学校・学校と学校で図書を共有

「図書資料相互利用システム運営要項」による運営

中央図書館を起点とした資料配送「物流ネットワーク便」(週2回)

公共図書館に学校ネットワーク専用図書を所蔵

「学校図書館年間利用計画」による計画的な図書館活用

情報ネットワーク 学校図書館を情報の基地に

パソコンによる学校図書館蔵書の管理

学校間蔵書の相互検索

公共図書館の全蔵書検索

メーリングリストの活用（資料の相互貸借を、共通書式で図書館や各学校に連絡）

調べ学習用コンピュータを各校5台設置

専用FAX付電話の設置

コーディネーターとしての教育センター

事業全体の計画立案・推進

・物流ネットワーク・情報ネットワークの運営と改善、予算の確保、研究の組織化等。

学校図書館への情報・資料提供、各種研修会の企画立案・実施

・「学校図書館研修会・ネットワーク会議」、「学校図書館コンピュータ講座」、「図書館体験研修」などの開催。

・「学校図書館支援センター通信」の発行・ホームページ上で公開。

「学校図書館年間利用計画」の作成・ホームページ上で公開

・各学校、幼稚園から提出された学校図書館年間利用計画を集約。

・学校種別に教科・単元にまとめなおして市内全体の「学校図書館利用計画」を作成。

・全校に配布し、相互貸借の参考にする。

支援スタッフによる学校図書館支援

・読書教育全般への指導・助言。

・学校図書館業務に関する相談・助言・協働。

・学校図書館に関するデータの集約・分析。

教育委員会担当課との連携

教育センターの他の事業とのネットワーク

・「学びを支える人間ネットワーク情報」(サポーターバンク)

・「博物館情報」(市川自然博物館、市川考古博物館、市川歴史博物館)

市川市 学校図書館支援センター（教育センター内）

所在地：〒272-0015 千葉県市川市鬼高1丁目1番4号 生涯学習センター内

TEL : 047-320-3335

ホームページ <http://www.ichikawa-school.ed.jp/network/index.html>

市川市教育委員会 学校教育部 教育センター

所在地：〒272-0015 千葉県市川市鬼高1丁目1番4号 生涯学習センター内

TEL : 047-320-3335

ホームページ <http://www.ichikawa-school.ed.jp/>

市川市 生涯学習部 中央図書館

所在地：〒272-0015 千葉県市川市鬼高1丁目1番4号 生涯学習センター内

TEL : 047-320-3333(自動応答) 047-320-3346(直通)

ホームページ <http://www.city.ichikawa.lg.jp/library/>

蔵書冊数：1,193,000冊 個人貸出冊数：3,303,000冊 個人登録者数：154,300人

3. 千葉県袖ヶ浦市

学校図書館を取り巻く「ひと」・「もの」・「情報」のネットワーク

基本情報

面積：94.92 km² 広さ：東西 14.0km 南北 13.5km 周囲：84.5km
人口：61,434 人（平成 23 年 5 月 1 日現在）
図書館数：5 館（図書館 3、公民館図書室 2）
小学校：8 校 3,484 人（平成 23 年 5 月 1 日現在）
中学校：5 校 1,759 人（平成 23 年 5 月 1 日現在）

袖ヶ浦市は、千葉県の中西部、東京湾沿いのほぼ中央部に位置しており、東部は市原市、西南部は木更津市に接し、北部は鋸歯状に東京湾に面しています。市の東部及び北西部は清澄山系に連なる高台を形成し、西南部から南部にかけては肥沃な水田地帯が開け、丘陵地帯は畑地となっています。

平川町・根形村の一部及び富岡村の一部が合併した旧平川町と、昭和町。長浦村及び根形村の一部が合併した旧袖ヶ浦町とが、昭和 46 年 11 月に合併して袖ヶ浦町となり、その後、平成 3 年 4 月 1 日に千葉県下 29 番目、全国 656 番目となる市制を施行しました。

「袖ヶ浦」という地名は、日本武尊（ヤマトタケルノミコト）が相模国から東征の折り、東京湾を渡る際に大時化に遭い、海神の怒りを鎮めるため海中に身を投じた妃の弟橘姫（オトタチバナヒメ）の袖がこの地方の海岸に流れ着いた、という伝説に由来しています。

昭和 40 年代には臨海部の埋め立てが進み、京葉工業地帯の一翼を担う石油化学やエネルギー関連等のコンビナートが形成され、それまでの農業・漁業を中心とした町から、産業構造や雇用環境は大きく変貌しました。一方、内陸部では高度経済成長を契機に、土地区画整理事業による宅地化が進行して人口も急激に増加し、都市基盤、文化・学習環境等の各分野で整備が進みました。

その後、バブル経済崩壊など国内経済の減速・後退を反映し、開発志向からの変化が見られましたが、本市の交通利便性は、館山自動車道や東京湾アクアライン等の開通、高速バスの運行開始などによって飛躍的に向上しており、今後は房総地域の玄関口、広域交通の結節点として重要な役割を担うなど、一層の飛躍が期待されています。

地方分権の進展や少子高齢化の進行、地球規模の環境問題など、これまでに経験したことのない大きな時代の変化を迎え、本市は、10 年後の将来都市像を『「自立と協働のまち」人いきいき、緑さわやか、活力あふれる袖ヶ浦』とする、新たな「袖ヶ浦市総合計画」を平成 22 年に策定し、市民と行政の協働によるまちづくりに向けた様々な施策を展開しています。（「袖ヶ浦市立図書館の概要」より）

袖ヶ浦市の学校図書館整備事業

袖ヶ浦市は進展する情報化・国際化に対応した学校教育を積極的に推進する中で、学校図書館の有効活用による読書教育の充実を重点施策としています。

図書購入費の予算化、 学校図書館の電算化・コンピュータによる蔵書管理
読書指導員の配置、新聞・雑誌の配本、 学校間及び学校と公共図書館を結ぶ「図書流通システム」、 学校図書館の学習情報センター化、 調べる学習賞コンクールの実施、
学び方ガイドの作成、 学校図書館支援センターの運営

学校図書館を機能させる「ひと」・「もの」・「情報」のネットワーク

平成 17 年度に市立総合教育センター内に学校図書館支援センターを設置して、「ひと」・「もの」・「情報」のネットワークをコーディネートし、学校教育の支援活動を行っています。

「人」のネットワーク

「読書指導員」(学校図書館司書)の全校配置

- ・人のいる温かい学校図書館を実現(貸出・返却・相談等の常時対応)。
- ・図書 of 適正な管理(蔵書の購入、補修、廃棄)。
- ・学校図書館の環境の整備(掲示、配架等)。
- ・児童の読書意欲の向上。
- ・「調べ学習」の定着。
- ・公共図書館や他校との密接な連携・協力。

司書教諭の全校発令

- ・教育課程の編成と学校図書館の活用に関する調整を行う。

司書教諭研修会、読書支援員研修会の開催

読書教育推進会議の開催

- ・司書教諭、読書指導員全員が参加。

調べる学習コンクール審査会

- ・審査会を作品の評価方法を学ぶ研修の場としても位置づける。
- ・全国コンクールの下部審査としての審査会運営。
- ・作品展示会の開催。

「もの」のネットワーク

図書購入費の予算化

郷土博物館資料の教材化

- ・郷土博物館所蔵資料を学習教材パックとして物流にのせる。
- ・すべての教科に使用できる、「昔のくらし」、「昔のあそび」、「戦争関係」など。

ビデオ教材の整備

- ・総合教育センターにてビデオ教材をデータベース化。
- ・教材貸出システムで検索・予約。
- ・物流及び、センター巡回にて学校へ配送。

文献資料のデータベース化

- ・市や教育委員会に送付される文献資料をデータベース化。
- ・教材貸出システムによりWEB上で検索・予約。

「情報」のネットワーク(袖ヶ浦市教育情報ネットワーク「ウグイズネット」)

インターネット接続サーバーの運営

- ・WEBからの中央図書館への物流の依頼。
- ・インターネット接続、有害情報のフィルターによる排除。
- ・全教職員へのメールアカウントの発行。
- ・全小中学校HP公開。

蔵書の電算化、図書館利用PCの整備

- ・蔵書の電算化、MARCの購入。

教育情報ネットワークを活用した図書流通システムの効率化

- ・中央図書館へのリクエストのWEB化。
- ・図書掲示板の運用（学校間図書相互貸借の窓口）

学校図書館における情報検索機器の整備

- ・インターネット検索PC等。

教材貸出システムの運用

- ・総合教育センター所有のビデオ教材等の検索・予約。

校内LANの活用

- ・校長室、普通教室、特別教室をネットワーク接続し、サーバー資源を活用する。

小中学校学び方ガイドの作成・活用

- ・学び方の教科書にあたる教材として、全学級に配布。

学校図書館支援センターの業務

学校図書館向け資料の収集・データベース化及び貸出

レファレンス、所蔵調査

学校等への情報提供

学校対象図書の頒布

読書教育全般への指導・助言

図書館業務に関する質問・相談・指導

蔵書構成・図書購入への支援

視察及び見学者への対応

中央図書館、博物館との流通に関する調整

学校図書館図書データの集約・分析

読書教育関係研修会の運営

袖ヶ浦市の読書教育関係WEBサービスの管理・運営

袖ヶ浦市学校図書館支援センター

所在地：〒299-0262 千葉県袖ヶ浦市坂戸市場 1393-3 総合教育センター内

TEL : 0438 - 62 - 2449 (専用電話：直通)

ホームページ <http://www.sodegaura-chb.ed.jp/gkk.html>

袖ヶ浦市立総合教育センター

所在地：〒299-0262 千葉県袖ヶ浦市坂戸市場 1393-3

TEL : 0438 - 62 - 2254 (代表)

ホームページ <http://www.sodegaura.ed.jp/index.html>

袖ヶ浦市立中央図書館

所在地：〒299-0262 千葉県袖ヶ浦市坂戸市場 1393-2

TEL : 0438 - 63 - 4646

ホームページ <http://lib.sodegaura.ed.jp/>

蔵書冊数：595,000冊 貸出冊数：673,000冊 登録者数：46,900人

4. 鳥取県米子市

学校図書館支援「米子方式」

基本情報

面積：132.2 km²
人口：150,370 人（平成 23 年 11 月 1 日現在）
図書館数：1 館
小学校：23 校 8,630 人（平成 23 年 5 月 1 日現在）
中学校：12 校 528 人（平成 23 年 5 月 1 日現在）

鳥取県の西側、山陰のほぼ中央に位置する米子市。東には「伯耆富士」とも呼ばれる国立公園大山、北に日本海、そして西には汽水湖として日本で 5 番目の大きさを誇り、ラムサール条約にも登録されている中海という、豊かな自然に囲まれています。市の大半は平坦な地形で、東にある標高 751.4 メートルの孝霊山とそれに連なる大山の山すそ、また南部に標高 100 メートル程度の山が点在する程度です。その一帯には、大山や中国山地に源を発する日野川のほか、法勝寺川、佐陀川、宇田川などが流れ、日本海へと注いでいます。また、大山山麓から湧き出た水は、名水として広く認められています。

日野川を中心とする地帯の地質は、主として花崗岩、角閃石安山岩および第 3 期水成岩ですが、弓ヶ浜一帯から日野川河口周辺、そして市の東部は沖積層となっています。紀元前からの歴史を持ち、弥生時代の大規模集落跡や古墳時代の遺跡も数多く発見されています。江戸時代には城下町として繁栄し、その城下町に住む商人によって「商都米子」の礎が築かれました。

その文化や気質を受け継ぎながら、現在では、高速道路や鉄道、さらには空路・海路の要衝として「山陰の玄関口」の顔も持っています。遠く弥生時代から大陸との交流があったとされ、現在では「山陰の玄関口」。

そんな「交流のまち」、それが米子市です。（米子市ホームページより）

米子市の学校図書館整備事業

学校図書館の人員配置

- ・学校図書館専任職員の全校配置（平成 9 年度から 4 ヶ年計画で平成 12 年に配置完了）
- ・司書教諭の全校発令（平成 14 年度から）

物流システムの確立

- ・学校図書館への貸出は専用袋（長期貸出は折り畳みコンテナ）を使用して配本
- ・市の公用車が火曜から金曜の毎日学校へ配本

学校図書館のデータベース化

- ・全校のデータベース化が完了し学校間の資料検索を実現（平成 13～15 年度）
- ・学校間相互貸借開始（平成 15 年 11 月）
- ・学校間メーリングリスト完成（平成 16 年 1 月）リクエストや情報交換に活用

米子市子どもの読書活動推進ビジョン「読書大好き、やさしい子ども」

子どもたちに読書の楽しさを知ってもらうために、また、保護者のみなさんに読書の大切さを知っていただくために、「ふるさと米子子ども読書活動推進会議」において検討し、策定されました。計画期間は平成 18 年度からおおむね 5 年間で、平成 23 年度には、「米子市子どもの読書活動推進ビジョン検討委員会」を設置して、今後のビジョンを策定中です。

〔既存の事業〕

朝の読書活動

学校図書館のネットワーク

ブックスタート

読み聞かせボランティア

〔今後の重点分野〕

環境づくり

ブックスタートの継続、市立図書館ホームページ上に子育て支援情報や推薦図書の紹介、朝の読書の継続、図書資料を活用した調べ学習の継続、読み聞かせボランティアの促進、移動図書館車や公民館図書室の利用促進、ライトハウス点字図書館との連携の継続

ひとづくり・地域づくり

「朝の読書」の促進、ブックスタートの促進、地域の歴史や民話についての冊子作成、学校における地域についての調べ学習の支援

米子市立図書館 7ヶ条における学校教育支援「図書館は学校教育を支援します」

米子方式として注目された学校(図書館)支援を一層充実させます。

市内全校・全学級(小・中)へ長期貸出可能な資料を備えます

リクエスト貸出に必要な学習関連資料を充実させます

児童・生徒のための地域資料ガイドブック「ふるさと米子探検隊」シリーズを充実・発展させ、ホームページ上に公開します

ホームページ上に、調べ学習支援のためのリンク集を編集します

総合的な学習を支援するための資料を作成します

(図書館利用の際のお願い(教諭用) 図書館調べ学習 手引書(小・中・高))

図書館ガイダンスのための、職員による学校訪問を実施します

図書館ガイダンスのための、図書館への学級招待を実施します

米子市立図書館 7ヶ条

1. 図書館は一人ひとりの暮らしを応援し、そのための情報を提供します
2. 図書館は市民の生涯学習の拠点施設です
3. 図書館は子どもたちの心と人格を育みます
4. 図書館は学校教育を支援します
5. 図書館は高齢者の生きがいを支援するとともに、図書館利用に障害のある人を手助けします
6. 図書館は IT を活用した情報のサービスステーションです
7. 図書館は地域の文化と経済の活性化に役立ちます

(米子市立図書館ホームページより) <http://www.yonago-toshokan.jp/39/305.html>

米子市立図書館による学校図書館支援事業

学校図書館ネットワーク「米子方式」

- ・市立図書館の資料と、米子市立の全小中養護学校と児童文化センターの図書室の資料が対象。
- ・リクエストに応じて、市立図書館を經由して市の公用車が毎日（火曜～金曜）学校に配本。

学校図書館への貸出

- ・通常の団体貸出（50冊）枠にとらわれず、特に冊数制限を設けずに可能な限り貸出する。
- ・朝の読書など学級文庫用図書の長期貸出（40冊単位で児童数を上限に、学期毎または1年間）

レファレンスへの対応

- ・問合せを様式化（FAXまたはEメールで受付）
- ・調べ学習事例集の作成・ホームページ上での公開。

学校図書館研修会の開催

- ・教育委員会学校教育課主催で市立図書館を会場に実施。
- ・専任職員対象研修、司書教諭との合同研修（年2回）

調べ学習支援のためのリンク集の作成

地域資料ガイドブック「ふるさと米子探検隊」の作成・ホームページ上での公開

第1号「民話マップの巻」、第2号「米子城入門の巻」、第3号「お寺や神社を調べてみようの巻」、第4号「淀江ってどんな町？の巻」、第5号「川とくらしの巻」、第6号「中海入門の巻」、第7号「村絵図に見るむかしのくらしの巻」、第8号「弓ヶ浜 農業の歴史の巻」、第9号「大山入門 自然編の巻」、第10号「米子人物事典の巻」、第11号「見つけてみよう 石造物の巻」、第12号「大山入門 歴史編の巻」、第13号「米子の産業 入門編の巻」、第14号「米子の年中行事の巻」、第15号「米子の水はなぜおいしい？の巻」

米子市立図書館

所在地：〒683-0822 鳥取県米子市中町8番地

TEL : 0859 - 22 - 2612

ホームページ <http://www.yonago-toshokan.jp/>

蔵書冊数：246,000冊 貸出冊数：373,000冊 登録者数：54,500人

米子市児童文化センター

所在地：〒683-0826 鳥取県米子市西町133

TEL : 0859 - 34 - 5455

ホームページ <http://yonagobunka.net/jibun/>

参考事例における各図書館の蔵書冊数、貸出冊数、登録者数の数値は、すべて「日本の図書館統計と名簿2010」（社団法人日本図書館協会）による。

